

研究協力をお願い

昭和医科大学では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

乳癌における RNA-seq を用いた自然免疫系分子の発現解析

1. 研究の対象および研究対象期間

2025 年 10 月から 2028 年 3 月までに昭和医科大学横浜市北部病院乳腺外科において手術を受けた方の一部

2. 研究目的・方法

一部の癌では発癌においては、組織の慢性炎症が関与している可能性が現在知られています。炎症をきたした組織中には、サイトカインという細胞間の情報伝達に関わるタンパク質が様々な細胞によって産生されています。サイトカインは、癌においても極めて重要な役割を担っており、腫瘍の増殖あるいは抑制に対し、直接的あるいは間接的に影響を及ぼしていることが明らかになっています。

腫瘍を増強させるサイトカインの同定およびその阻害、あるいは腫瘍抑制性サイトカインの活性化および増強は、癌に対する治療戦略として注目されています。

今回私たちは癌の組織学的微小環境下において、癌細胞自身の増殖や進展に最適なサイトカイン産生量（定量値）が存在するのではないか、という仮説を立て、乳癌について様々なサイトカイン値の定量を行うことを目的としました。

3. 研究期間

昭和医科大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから 2028 年まで

4. 研究に用いる試料・情報の種類

患者さんから外科的に切除された乳腺の組織を用います。これらは腫瘍の状態（良性・悪性、進行度など）を顕微鏡で調べる「病理診断」のためにパラフィンブロックという形にされ、患者さんの治療方針を決定するための病理診断に一部が利用され、診断が完了した後も残りが保存されています。

この残った材料から RNA シーケンスといった方法でサイトカインを調べます。

5. 外部への試料・情報の提供

該当いたしません

6. 研究組織

研究責任者 研究機関名 昭和医科大学横浜市北部病院臨床病理診断科 氏名 二本柳康博

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和医科大学横浜市北部病院臨床病理診断科

氏名：二本柳康博

住所：横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話番号： 045-949-7355